

「片瀬・鵜沼・辻堂の地名に迫る！」

藤沢地名の会 布施克彦

第5回:今も残っている小字・小字の重要性など

(2024年7月31日放送)

Q1 どのようなものに小字名が残っているのか

バス停によく小字が使われる。距離短く、著名な建物が無いところ。鉄道では、江ノ電に石上。以前は川袋、藤ヶ谷、新屋敷、西方などあった。

もっとよく小字名が使われているのは公園の名前。長久保、八部など大きな公園始め、街角の小公園には、鵜沼や辻堂地区に特に多い。たとえば・・

市民の家として浪合、藤ヶ谷、砂山。あと交差点の名前として浜見山。現在の住居表示にも(石上、藤ヶ谷)。あと気づかないのが電信柱の表示板

Q2 小字の由来から分かることや、小字の由来を知ることの重要性について

小字名は、その土地の本来の状況を直接的に伝えていることが多い。開発などで形状は変わってしまっても、その土地本来の性質は変わらない。今住んでいる場所が、本来どのような土地だったのか、また過去にその場所でどんなことが起こったのか、小字はそれらを伝える先人たちのメッセージ。それらを知ることによってその土地への思いが変わったり、防災上の参考になったりする。

Q3 最後に、ラジオをお聞きの方、市民の方にメッセージを

デベロッパーが「～が丘」とか「～の里」など聞こえの良い地名を適当に付けることが多いが、そこに不動産を求めるなら、その本来の地名は何だったのかを知るべき。

10年前広島の山沿いの新興住宅地で、大規模な土砂崩れがあり、多くの方がなくなった。被災地の一部には土砂崩れを意味する地名(蛇落地悪谷=じゃらくじあしだに)があり、その後別の地名に変わっていた。元の地名を知っていたらそこに家を建てたかどうか。

地名は生活の一部として深く考えずに使っていることが多いが、地名には歴史があり、その中には様々なメッセージ性が込められている。地名に関心を持ち、もう少し生活の中に引き寄せることで、役に立つことが色々あると思う。